



Produced by KATOKI HAJIME

# ZEONOGRAPHY

EXPANDED EDITION OF GUNDAM FIX FIGURATION

## #3007

MS-11 アクトザクは、ジオン公国軍が小惑星ペズンにおいて進めていた「ペズン計画」によって開発されたMSであるため「MS-X」にカテゴリ化される機体である。ベース機であるMS-06 ザクと同等の生産性を持ちながらジェネレーター出力の向上が図られているためビーム兵器の運用も可能である。最大の特徴は、機体背面にある関節部の脂肪を減らす「マグネットコーティング処理」が施されていることで、当時の機体としては随分の運動性を持つ。トータルではMS-14 ゲルググなどにも劣らない性能を発揮したが、試作段階で稼働を認めたため「一年戦争」に投入されることはなかったとされている。一年戦争終結後、生産施設を継承した連邦軍によって少数が生産され、主に研究施設などへテスト用の機体として配備された。U.C.0086年の「グリプス戦争」時、「北米オーガス研究所」所属の機体を実験投入された際にはビーム・ライフルやマシンガンも併用した。

MS-11

MS-06E-3



アクトザクからザクフリッパーへの換装が可能。ビームライフル・ブルバップガンが付属。



### WHAT'S FLIPPER

「フリッパー」の名は、フィン状のセンサーの挙動を見た兵士達が呼び始めた愛称である。このMS-06E-3は、一年戦争初期に活躍したMS-06E ザク強行偵察型をさらに改修した機体であり、頭部の光学デバイスには三基一体型のものに換装され、背面にはフィン状のブームセンサーを6基もつ複合検知システムを装備している。E型が光学的な探査のみであったのに対し、E-3型の複合センサーは、より精密な探査ができたといわれている。ただし、06E系の強行偵察機が容易に活動できたのも大戦中期までであったといわれている。後期以降、連邦軍の戦力も整備され、撃墜される機も出始めたからである。同機の最大にして最後の活躍は、アバオアークを脱走における、レビル艦への強行偵察任務であった。

### MS-11 ACT ZAKU [MS-06E-3 ZAKU FLIPPER]

PLANNING: PRINCIPALITY OF ZEON/ASTEROID BASE PEZUN  
ASSIGNMENT:  
PRINCIPALITY OF ZEON FORCE/EARTH FEDERATION FORCE  
MODEL NUMBER: MS-11  
HEIGHT: 18.7m  
HEAD HEIGHT: 18.2m  
EMPTY WEIGHT: 88.1t  
FULLY EQUIPPED WEIGHT: ---  
GENERATOR OUTPUT: 1,488kw  
PROPULSION ROCKET THRUSTERS: 84,805kg (TOTAL)  
MATERIAL: SUPER HARD STEEL ARMOY  
SPECIAL EQUIPMENT: MAGNET COATING PROCESSING  
ARMAMENTS: BEAM RIFLE  
MACHINE GUN  
BULLPUP GUN  
HEAT MARK  
etc.

PLANNING: PRINCIPALITY OF ZEON/ZEONIC  
ASSIGNMENT: PRINCIPALITY OF ZEON FORCE  
MODEL NUMBER: MS-06E-3  
HEAD HEIGHT: 18.7m  
EMPTY WEIGHT: 81.5t  
GENERATOR OUTPUT: ---  
PROPULSION ROCKET THRUSTERS: ---  
MATERIAL: SUPER HARD STEEL ARMOY  
SPECIAL EQUIPMENT:  
ADDITIONAL CAMERAS  
AND SENSOR SYSTEMS ON SHOULDERS  
AND MAIN BODY  
FIN-STYLE DIRECTIONAL LASER/  
SONIC SENSOR SYSTEMS MOUNTED ON BACKPACK  
ARMAMENTS: ---  
etc.

#### DESIGN&DIRECTION Katoki Hajime

MODELING: Akaba Kazuhira  
Takahashi Nobuhito  
COLORING: Miyashita Kenichi  
MARKING: Kanna Yoji (Jam)

PHOTOGRAPH: Takase Yoji (Takase Photo Office)  
EXPLANATION: Watanabe Yoshitaka (SHINDOSHIA)  
INSTRUCTION: Takahashi Masatomo  
COMMERCIAL DESIGN: Umeh Daijuku (DABHAND)



六甲模型教材社本店